

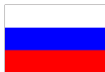
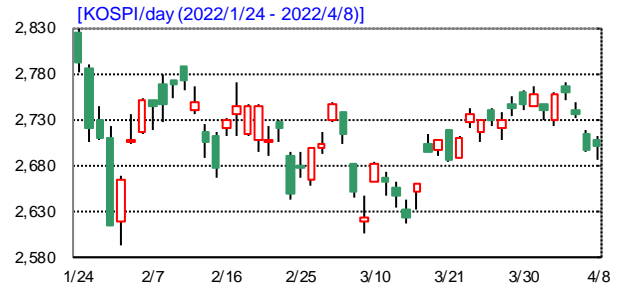


【韓国】 総合指数は週間で1.4%安と4週ぶりに反落、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.4%安と4週ぶりに反落。強弱材料が交錯し、週を通じて方向感を欠いた。前半は米株式相場の上昇を好感する買いが相場を押し上げ、後半は米FRBの積極的な金融引き締め姿勢が重荷となった。週明け4日は前週末の米株高の流れを引き継いで反発。5日も続伸し、2月10日以来ほぼ2カ月ぶりの高値で終えた。しかし、FRBのブレイナード理事によるタカ派的な発言や、金融引き締めの加速を示唆する米FOMC議事要旨を背景に米長期金利が上昇すると、ソウル市場は6-7日に続落した。8日は小幅に反発し、前日割り込んだ節目の2700ポイントを回復した。今週は2700ポイント付近でもみ合いか。ウクライナ情勢と対ロシア制裁の影響、中国のコロナ感染が引き続き相場を左右する要因となる。

▼指数チャート

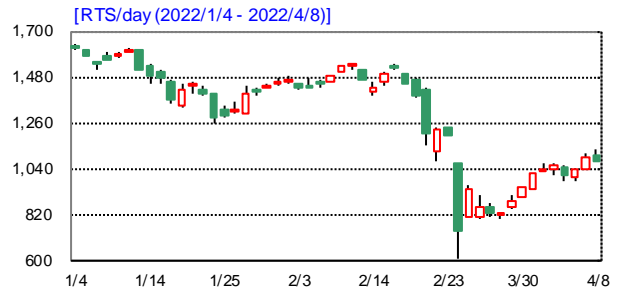


【ロシア】 RTS 指数は週間4.5%高と大幅に続伸、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は4.5%高と大幅に続伸。経済制裁の強化が嫌気され主力株は下落したものの、ルーブル高が指数を押し上げた。ウクライナに対する非人道的な行為を非難した西側諸国が経済制裁を強化し、制裁の対象に加わったズベルバンク・オブ・ロシアが7.0%安と沈み、エネルギーのノバテック、ロスネフチ、ダイヤモンド採鉱のアルロサ、鉄鋼のセヴェルスターリなどは2桁安。ルーブル建てのMOEX総合指数は週間で6.0%安と大幅に反落した一方、ルーブルが対米ドルで6.6%上昇したことで、米ドル建てのRTS指数は4.5%高と続伸した。ルーブルは取引が激減する中、輸出企業の外貨売りなどで、一時的にロシアのウクライナ侵攻以前の2月18日以来の水準までルーブル高・米ドル安が進んだ。今週は上値の重い展開か。

▼指数チャート

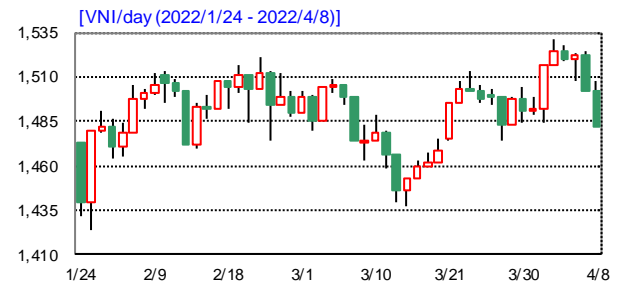


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.3%安と4週ぶりに反落、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.3%安と4週ぶりに反落。週初に過去最高値に迫ったが、その後は利益確定売りに押された。週明け4日は主力株が上昇し、指数は1月に付けた最高値まであと一息に迫った。高値警戒感が高まる中、5-6日は小幅に上下し、7日はアジア開発銀行がアジアの成長率見通しを下方修正したことを受けたアジア市場全般の下落がベトナム株にも波及。8日も主力の銀行、証券、鉄鋼株に売りが強まり、指数は7-8日に連日で1%超下落した。個別銘柄では不動産のノー・バー・ランドが3.4%、エネルギーのベトナム石油総会社が2.0%上昇した一方、金融のベトナム投資開発銀行が5.5%、食品加工のベトナム・デイリー・プロダクツが5.4%、家電小売りのモバイル・ワールドが3.8%下落した。今週はもみ合いか。

▼指数チャート

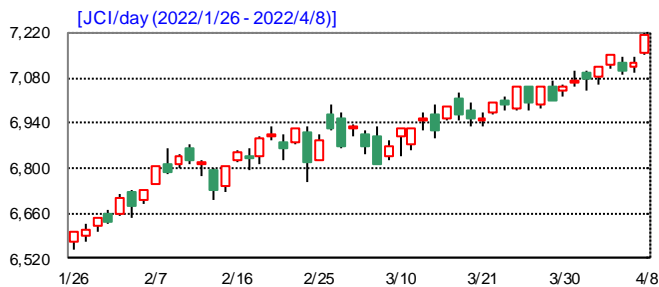


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.9%高、8日の終値は初の7200ポイント台到達

ジャカルタ総合指数は週間で1.9%高と4週続伸。週末の上昇が指数を押し上げた。4日は前週末のNYダウが3月の米雇用統計で労働市場の回復が示されたことを受けて反発した流れを引き継ぎ、4営業日連続で過去最高値を更新。5日は引け際に買われて上値を広げたが、6日は6日ぶりに反落した。ただ、7日に反発すると、8日は中央銀行が今年のインフレ率について、2-4%の目標レンジに収まるとの見解を示し、利上げ警戒感が和らいだ効果で、指数は前日比1.2%高と終値で初めて7200ポイント台に乗せている。今週は11日発表の2月の小売売上高が焦点。15日はグッドフライデーのため休場となる。

▼指数チャート

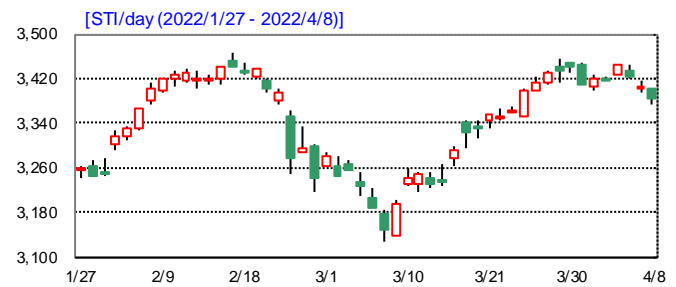


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は1.0%安、今週は14日に1-3月期のGDP速報値発表

ストレーツタイムズ指数は週間で1.0%安と5週ぶりに反落。軟調な値動きが続き、週末の終値は約2週間ぶりに3400ポイントを割り込んだ。週初の4日は小幅反落したが、5日は2月の小売売上高が6カ月ぶりに前年同月の水準を下回ったものの影響は軽微で反発。ただ、6日はFRBが金融引き締めを積極的に進めるとの見方が広がった影響で反落すると、7日は前日に公表された米FOMC議事要旨の内容が嫌気されて続落した。8日も買い材料に乏しく、3日続落して引けている。今週は14日に1-3月期のGDP速報値が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。15日はグッドフライデーのため休場となる。

▼指数チャート

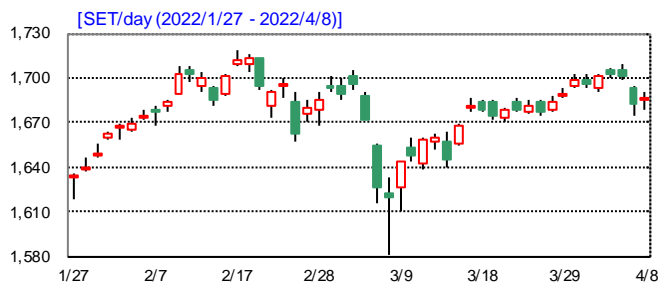


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は0.9%安、今週は13-15日がソンクラーンのため休場

SET指数は4日間の取引で0.9%安と反落。週前半は終値で1700ポイント台を維持したが、その後の下落が痛手だった。週初の4日は、タイ資本市場協会連盟(FETCO)が今年のGDP成長率見通しを下方修正したものの影響は軽微で、指数は小幅に続伸。ただ、5日にチャクラー王朝記念日の祝日を翌日に控えた様子見で反落すると、7日は前日に公表された米FOMC議事要旨の内容が売り材料視されて、指数は前日比1.1%安と続落した。8日は保健省が5月に外国人旅行者に対する入国条件を緩和する方針を示した効果で関連株が買われ、反発している。今週は13-15日がソンクラーン(旧正月)のため休場。

▼指数チャート

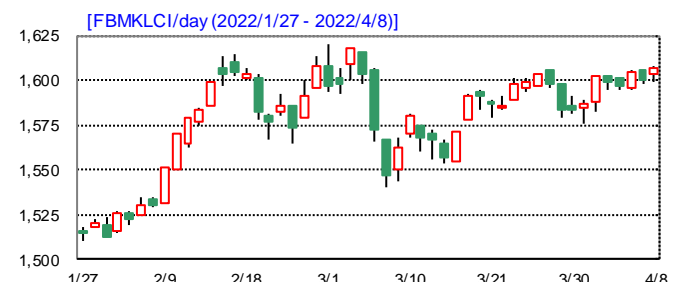


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は0.3%高、1600ポイントを挟んでもみ合い

クアラルンプール総合指数は週間で0.3%高と反発。1週間を通じて1600ポイントを挟んでもみ合いが続いた。週初の4日は、大型株の一角に利益確定売りが出た影響で、指数は3営業日ぶりに反落。5日も売り優勢の展開となったが、6日は反動で買われ、終値で3日ぶりに1600ポイント台を回復した。7日は3月に開催分の米FOMCの議事要旨で、量的引き締めの内容や利上げの加速に対する見解が示されたことで、経済の先行きに対する不安が広がり反落。ただ、8日には買い戻されて取引を終えている。今週は11日発表の2月の鉱工業生産が焦点。外部要因では、中国の3月の貿易統計が意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。